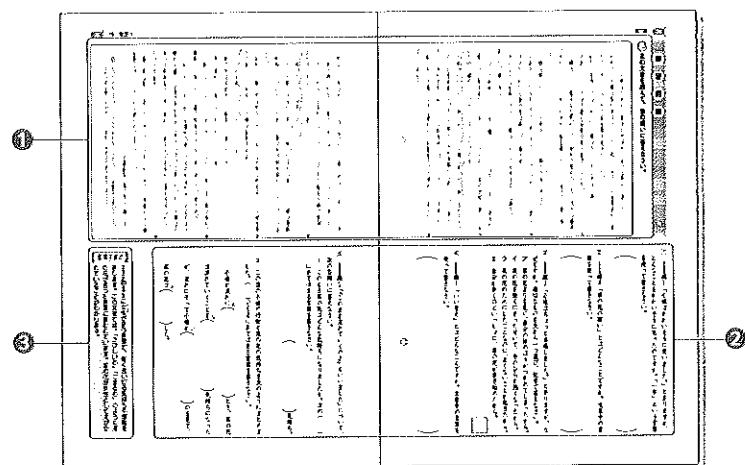
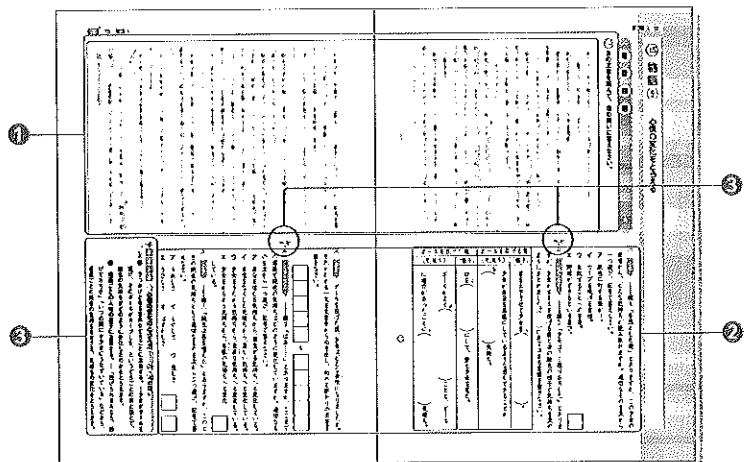


この本の使い方

単元 1つの単元を4ページでしっかり学習しよう。



確認問題

■良質な文章と問題に取り組もう。

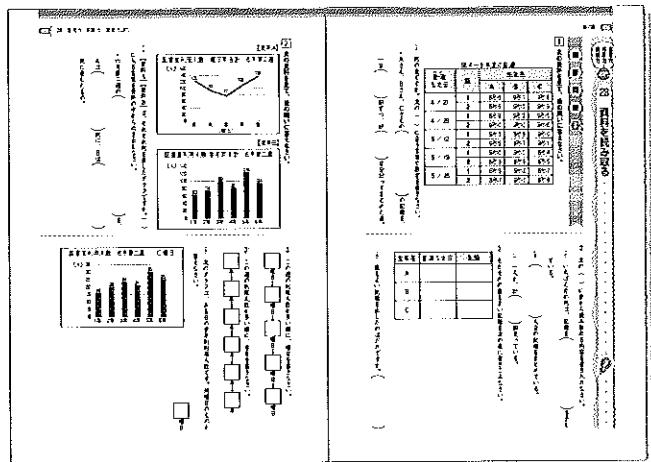
- ①文章の内容をしっかり読み取ろう。
- ②学習テーマを中心とした基本的な問題に取り組もう。
- ③「双葉マーク」の問題は単元のポイントとなるので、解説とあわせてしっかりおさえよう。

練習問題

■いろいろな問題に取り組み、真の読解力を身につけよう。

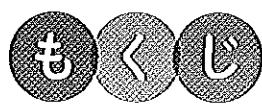
- ①文章の内容をしっかり読み取ろう。
- ②確認問題よりステップアップした問題にチャレンジしよう。
- ③「言葉のまど」で文章中の言葉について考え、理解を深めよう。

章末 章の最後に「思考力・判断力・表現力UP！」の問題にチャレンジしよう。



生活や学習活動上のさまざまな場面に生きる「思考力・判断力・表現力」を養うため、いろいろな問題を用意しました。各章の学習内容を踏まえた内容なので、スムーズに取り組むことができます！

★学習の準備や振り返りに使おう！ ➤ 文学的文章・説明的文章の読み取り方 ➤ 詩の基礎知識 ➤ 問題の考え方
★語い力を高めよう！ ➤ 言葉の学習・言葉のきまり
★学年の最後にやってみよう！ ➤ 総仕上げテスト



国語 5

章	单元名	ページ	学習予定期	学習日	チヨック欄
1	☆ 文学的文章(物語・隨筆)の読み取り方	4~5	8~9	/	/
2	☆ 詩の基礎知識	6~7	10~11	/	/
3	☆ 説明的文章(説明文・論説文)の読み取り方	12~15	16~19	/	/
4	☆ 問題の答え方	20~23	24~27	/	/
5	① 物語(1) 場面・情景をとらえる	28~31	32~37	/	/
6	② 物語(2) あらすじをとらえる	38~41	42~45	/	/
7	③ 詩(1) 詩の種類や表現技法をとらえる	46~49	50~53	/	/
8	④ 説明文(1) 指示語の指す内容をとらえる	54~57	58~61	/	/
9	⑤ 説明文(2) 接続語の働きをとらえる	62~67	68~71	/	/
10	⑥ 言葉の学習・言葉のきまり(1) 漢字の成り立ち／部首・画数・筆順／仮名づかい・送り仮名	72~75	76~79	/	/
11	⑦ 思考力・判断力・表現力UP! 指し示す・文をつなぐ	80~83	83~86	/	/
12	⑧ 物語(3) 人物の様子や行動をとらえる	/	/	/	/
13	⑨ 物語(4) 心情をとらえる	/	/	/	/
14	⑩ 伝記 人物の考え方・生き方をとらえる	/	/	/	/
15	⑪ 説明文(3) 段落の要点をとらえる	/	/	/	/
16	⑫ 説明文(4) 段落どうしの関係をとらえる	/	/	/	/
17	⑬ 言葉の学習・言葉のきまり(2) 二字熟語の構成／二字熟語・四字熟語／類義語・対義語	/	/	/	/
18	⑭ 思考力・判断力・表現力UP! 漢字を分類する・文を書きかえる	/	/	/	/
19	⑮ 物語(5) 心情の変化をとらえる	/	/	/	/
20	⑯ 物語(6) 表現のくふうをとらえる	/	/	/	/
21	⑰ 詩(2) 表現を味わいながら情景・心情をとらえる	/	/	/	/

★ 文学的文章（物語・隨筆）の読み取り方

人間の気持ちなどが中心となつてえがかれ、それが読者に感動を呼び起こす文章を文学的文章といい、物語・隨筆・詩などがあります。

●物語とは：すじ（ストーリー）のある話の中で、登場人物の行動や会話、できごとなどを通して、作者の思いが表現されている文章。

●隨筆とは：見たり聞いたりしたことや心にうかんだことなどについて、筆者独自の考えが自由に述べられている文章。

例文 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

あつという間に秋がすぎた。

*豊中つて、とくに秋がきれい。春のサクラもすてきだけど、みどりの多い豊中は、町中秋色になつて、すずしい風が木の葉っぱをおどらせる。

クリスマスもお正月もたのしかつた。あんなにらみ合つてたみ、さきともいつの間にか話をしてた。気がついたら、わたしもときどき大阪弁になつてる、つもりだった。なのに、

「あんたの大坂弁、なんやおかしいねん」

ちひろもミサキもわらうんだ。

「どこがおかしいねん」つていつたら、「やめとき、やめとき」と、またわらわれた。

お正月がすんだころ、会社からいつもより早めに帰つて来たパパ

1 場面・情景をどうえる。

- ・場面・情景とは、物語の中のできごとが起つているその場の風景や様子、ふんいきなどのことです。

- ・「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を読み取ります。

例題 1 この文章の場面を次のようによどめました。（　）にはまる言葉を文章中からぬき出しなさい。

（　）がすんだころ、パパが家族に、（　）に帰る話をした場面。

2 心情をどうえる。

- ・「うれしい」など、心情を直接表す言葉から読み取ります。

- ・登場人物の会話や様子、行動から、心情を読み取ります。

- ・場面・情景から、登場人物の心情を想像します。

例題 2

——線①「ママと……いつせいにやけんだ。」ときの三人の気持ちとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

A いい話を聞いて、わくわくする気持ち。

B かわいそうなパパを、助けたい気持ち。

C 急なことを言われて、とまどう気持ち。

D 大阪弁がむずかしくて、悲しむ気持ち。



が、

「たぶん、三月いっぱいで、また、東京にもどることになると思う」といった。

「そんなあー」^①ママとお兄ちゃんとわたし、いつせいにさけんだ。

「大阪に来たのも急だつたけど、いろいろあってね。きみたちにもいわくかけるけど、会社つてそういうところなんだ」とパパはいう。

「卒業式、出れるかな」とお兄ちゃんがいった。「だいじょうぶだ」とパパは保証した。ママは「いそがしくなるわね。何から始めようかしら。でも、もう少し、ここにいたかった」と、ちょっとしんみりした。

とつぜん、そんなにとつぜん、あつちだこつちだといわないでほしい。たつた一年だつたけど、わたし、白水小学校でたくさんのこと勉強したの。算数や国語のことじやない。

ここには、いままで知らなかつたすてきな友だちとの毎日があつたの。犬は飼えなかつたけど、ウサギ友だちもできたの。ウサギのエサのあじみもしたの。

「わたしここにのこる！ 大阪すきやもん！ 学校大すきやもん！ みんなと別れるのいややー」わたしは、そうさけんで自分の部屋にかけこんだ。ベッドにもぐりこんで、思いつきりないた。
なみだが止まらない。

〈野田道子「ぼくもぼくのことすき」より 每日新聞社刊〉

人物像をとらえる。

- 人物像とは、登場人物の年齢や家族関係、性格や考え方など、その人がどのような人物であるかをいいます。
- 「明るい」など、性格を表す言葉から読み取ります。

- 登場人物の会話や様子、行動から人物像を読み取ります。

例題3

「わたし」はどんな人物だと思われますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | |
|-------------|----------------|
| A 元気で正直な人物。 | I まじめでおとなしい人物。 |
| ウ 強気でいばる人物。 | エ うそつきでずるい人物。 |

例題4

主題をとらえる。

- 主題とは、作者が作品を通して最も強く伝えたいことです。
- 物語では、登場人物の心情の変化や感動的な場面、クライマックス（最ももりあがる場面）に注目します。
- 隨筆では、筆者の体験や感動が印象的に書かれている部分や、考えを強くうつたえている部分に注目します。

例題4

——線②「なみだが止まらない。」のはなぜですか。次の文の□にあてはまる言葉を文章中からぬき出しなさい。

豊中では、

楽しく過ごしてきたが、そのみんなと

この日に

なって、とてもつらく、悲しいから。

★ 詩の基礎知識

●詩とは：作者が見聞きしたことや想像の中でも強く心に感じたことを、リズム感のある言葉で表現したもの。ふつうの文章よりも短く選びぬいた言葉を使い、表現をくふうしています。

例詩 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

冬が来た
高村光太郎

きつぱりと冬が来た

① 手の白い花も消え
公孫樹の木も等になつた

② きりきりともみ込むよくな冬が来た

③ 人にいやがられる冬
草木に背かれ、虫類に逃げられる冬が来た

冬よ

僕に来い、僕に来い
僕は冬の力、冬は僕の餌食だ

⑤ しみ透れ、つきぬけ

火事を出せ、雪で埋めろ
刃物のような冬が来た

1 詩の種類をとらえる。

詩は、用語から口語詩と文語詩に、形式から定型詩と自由詩に分けられます。

2 詩の種類をとらえる。

ア 文語定型詩 イ 文語自由詩
ウ 口語定型詩 エ 口語自由詩



3 詩の表現技法をとらえる。

詩では情景や心情をより効果的に表すために、比喩（直喻・隠喻・擬人法）、倒置、体言止め、対句、反復などの表現技法が使われています。

例題2 線①～⑤で使われている表現技法を次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| ア 直喻 | イ 隠喻 | ウ 擬人法 |
| オ 体言止め | カ 対句 | キ 反復 |
| ① <input type="checkbox"/> | ② <input type="checkbox"/> | ③ <input type="checkbox"/> |
| ④ <input type="checkbox"/> | ⑤ <input type="checkbox"/> | |

3 情景をとらえる。

詩の中の季節・時刻・天候・場所・人物・できごとなど
がわかる言葉をおさえ、情景を読み取ります。

〈知識のまとめ〉

詩の種類

用語上	形式上
口語詩	各行の音数にきまりがない詩。
文語詩	各行の音数にきまりがある詩。七五調や五七調など。
自由詩	各行の音数にきまりがない詩。
定型詩	文語(昔の言葉)で書かれた詩。

詩の表現技法

比喩	直喻	例
擬人法	「ようだ」「みたいだ」などを用いる。	美しい願いごとのように
擬人法	「ようだ」「みたいだ」などを用いたとえる。	私の耳は貝の殻
倒置	人間でないものを人間に見立てる。	人間でないものを人間に見立てる。
体言止め	語順を入れかえてその部分を強調する。	どうだろう／この沢鳴りの音は
反復	行末を体言(名詞)で止めて余韻を残す。	ああ なんという美しさ
対句	構成のよく似た語句を並べて印象を深める。	ほくの前に道はない／ほくの後ろに道はできる
反復	同じ言葉をくり返して印象を強める。	いちめんのはな／いちめんのはな

例題3

線①「公孫樹の木も簪になつた」とあります。が、「公孫樹の木」のどのよくな様子を表していますか。書きなさい。

例題4

心情をとらえる。

気持ちを表す言葉や、表現技法を用いて印象を強めてい
るところに着目し、作者の心情を読み取ります。

例題5

「冬」に対する気持ちはどのようなものですか。適切なものを次
から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 冬をおそれる気持ち。 I 冬に立ち向かう気持ち。
W 冬をたえしのぶ気持ち。 E 冬を待ちわびる気持ち。

主題(=感動の中心)をとらえる。

情景や心情、またそれらをより効果的に伝えるための表
現技法をおさえることによって、詩全体で作者が最も伝え
たい感動の中心(=主題)をとらえます。

例題5

この詩の主題について述べた次の文の A・B にあ
てはまる言葉を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

「きっぱりと」「きりきりと」「刃物のような」と表現される冬の
A と、「冬は僕の餌食だ」という作者の B 思いとのぶつ
かりあい。

ア 美しさ イ はかなさ ウ きびしさ
エ 苦しい オ はげしい カ みじめな

B A

★ 説明的文章（説明文・論説文）の読み取り方

ある事がらや問題を取り上げ、それについてすじ道をたててわかりやすく述べた文章を説明的文章といい、大きく説明文と論説文に分けられます。

●説明文とは：ある事がらや問題についての筆者の意見が、事実にもとづき、わかりやすく読者に説明されている文章。解説文ともいいます。

●論説文とは：ある事がらや問題について、筆者が強く伝えたい意見や主張が、根拠とともになつて読者に説明されている文章。

例題 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

- [1] 七夕と書いてタナバタと読みます。なぜでしょう。昔から国文學者や歴史学者たちも研究してきました。

- [2] 二千年前の中国の伝説では、星座の中の鷦座のアルタイル星を牽牛星、琴座のベガ星を織女星とよんでいました。年に一度だけ旧暦の七月七日の夕方に、牛をつれた牽牛星は天の川を渡つて機を織つている織女星のところに会いにいくのです。しかし、雨が降ると天の川を渡ることができなくなります。人びとは、二つの星が七夕の夜に会えますようにと祈つて、星祭りをおこないました。

- [3] 中国古代の七夕伝説と行事は、奈良時代にわが国につたわり、「万葉集」の歌にもよまれています。
- [4] いっぽう、中国の伝説とは別に、わが国には「棚機つ女」の伝説がありました。
- [5] それは、川や沼のほとりで、板を水辺にさし出して作った棚の

指示語をとらえる。

1

・指示語とは、物事を指し示す「これ」「それ」などの言葉のことです。

・指示語の前部にあります。

例題 1 ～～線 「それ」が指している事がらを、文章中から九字でぬき出しなさい。

2

接続語をとらえる。

・接続語とは、語と語、文と文などをつなぐ働きをする言葉のことです。

・どんな接続語が使われているかで、前後の文がどんな関係でつながっているかがわかります。

例題 2

――線 「しかし」の前後の内容はどんな関係になっていますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 前の内容の具体的な例を後の内容で挙げている関係。
- I 前の内容のくわしい説明を後の内容でしている関係。

- ウ 前の内容に後の内容をつけ加える関係。
- エ 前の内容と後の内容が反対になる関係。



- ⑤ 旧暦日月の満ち欠けを基準にしたこよみ。太陽の運行を基準にした現在の新暦（太陽暦）とは、およそ一ヶ月のずれがある。
- 水神さまは水を支配する神様。稻作の神や飲み水の神など。
- （芳賀日出男「日本の祭りと芸能〔Ⅱ〕」より）

- 上に機をおき、乙女が神さまの衣を織りながら、*水神さまのあらわされるのを待つて、いたという物語です。
- ⑥ わが国ではこの二つの伝説が重なりあって、七夕をタナバタと読むようになったのです。
- ⑦ 星祭りは、伝説とともに昔から少女たちに好まれてきました。天の川の織女星や棚機つ女と同じように、裁縫や手芸が上手になりますようにと七夕の時に願いごとをしました。
- ⑧ その行事は「乞巧奠」とよばれ、平安時代には五色の糸や金銀の針を庭の祭壇にかざりました。室町時代にはさらに歌ったり、香をたいて楽しみました。
- ⑨ 江戸時代になると、寺子屋に通つて手習いをする子供たちが、短冊に願いごとの文字を書き、それを笹竹につるして、天の川の二つの星に祈つたのです。
- ⑩ 現在でも笹竹の七夕かざりは作られています。商店街や大通りにならび立つて、いる七夕かざりの吹流しは、五色の糸や短冊の変化したものに、薬玉をつけたのです。
- ⑪ 七夕の行事は八月七日にするところが多いのですが、東京では七月七日になります。そのころはまだ梅雨が終わらず、夜空に天の川ははつきりと見えません。旧暦の昔の七月七日は八月七日ころにあたり、立秋も近づき、夜空が澄んできて、八月に七夕の行事をするほうが、天の川の星がはつきりと見えます。

- （芳賀日出男「日本の祭りと芸能〔Ⅱ〕」より）
- ① 旧暦日月の満ち欠けを基準にしたこよみ。太陽の運行を基準にした現在の新暦（太陽暦）とは、およそ一ヶ月のずれがある。
- 水神さまは水を支配する神様。稻作の神や飲み水の神など。

3 段落の要点をとらえる。

例題 3 「要點」とは、大切なところのことです。

・段落の要点は、段落でいちばん大事な文からとれます。

例題 3 ② 段落の要点をまとめるとするとどうなりますか。次の文の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。

中国の人びとは、牽牛星と織女星の二つの星が、

4 文章構成をとらえる。

例題 4 この文章は大きく三つに分けられます。二つ目と三つ目の始まりの段落番号を答え
なさい。

二つ目 三つ目

5 要旨をとらえる。

例題 5 「要旨」とは、筆者が伝えようとする最も中心になることです。

①～⑥段落の要旨をまとめるとするとどうなりますか。

次の文の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。

日本では、中国古代の



- ③ 次の文の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。
- 日本では、中国古代の

- （芳賀日出男「日本の祭りと芸能〔Ⅱ〕」より）
- ④ 次の文の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。
- 日本では、中国古代の

問題の考え方

1 「ぬき出しなさい」と「書きなさい」を区別する。

待ちに待つた遠足の日。^①その日の朝は雲一つない快晴だった。
 「がんばっててるてるぼうずを作ったかいがあつたね！」
 一年生の弟が、目をこすりながら言った。
 「大丈夫?^② ゆうべ眠れなかつたの？」
 ぼくは、弟の目の下にうつすらとうかぶクマを見つめた。

(1) — 線① 「その日」とはいつです
 か。文章中からぬき出しなさい。



(2) — 線② 「クマを見つめた」とあ
 りますが、このときの「ぼく」の気
 持ちを書きなさい。

(圖) 配する気持ち。

2 指定された字数どおりに答える。

昼間の太陽より夕日のほうが大きく見えることがあります。太陽
 の大きさは同じなのに、夕日はなぜ大きく見えるのでしょうか。
 夕日は建物や道路の近くに見えるから、それらと比べて大きく
 見えるのではないか、という人もいます。また、ほかの説明をす
 る人もいます。どちらにせよ、夕日が大きく見える原因是、目の
 錯覚であることは、確かです。

(1) — 線 「それら」が指しているも
 のを、文章中から五字でぬき出しな
 さい。



建 物 や 道 路

↑ 「五字で」とあるので、五
 字ちょうどの言葉をぬき出
 します。

(2) タ日が大きく見える原因は何です
 か。文章中から五字以内でぬき出しな
 さい。

目 の 錯 覚

↑ 「五字以内」とあるので、
 五字かそれよりも少ない字
 数の言葉をぬき出します。

- 「ぬき出しなさい」とあるときは、習っていない漢字が出ていても、平仮名には直さずに、そのまま漢字で書きましょう。
- 「文章中の言葉を使って書きなさい」とあるときは、文章中の言葉を利用します。言葉の順番などを変えて、文の形を整えて答えましょう。

「、」や「。」も一字に数えて書く。

ハチは、一匹きの女王バチを中心にして、少數の雄バチと多數の働きバチで群れをなしています。⁽¹⁾このハチの社会は、アリの社会と同じく、とてもきちんと整っていることが知られています。

女王バチはたまごを生みます。⁽²⁾働きバチはせつせとミツを集め、また、敵を防ぎます。

(1) 線①「ハチの社会」とあります

すが、ハチの社会の構成が具体的にわかる一文をぬき出し、初めと終わ

りの五字を書きなさい。

ハ	チ	は	、	一
テ	イ	マ	、	一



↑「、」や「。」(句読点)も一字としてぬき出します。

特別に句読点を数えないときには、問題に「句読点は字数に数えません。」など

の指示があります。

(2) 線②「働きバチ」は何をしますか。十字内で書きなさい。

↑答えの文の終わりには「。」をつけます。この「。」も

一字として数えます。

敵	を	防	ぐ	。
ミ	ツ	を	集	め

例



問題の考え方

□字数を数えるときは、「」「。」だけでなく、「」(かぎかっこ)など

の符号も字数にふくめて数えます。

「なぜ」ときかれたら「……から。」と答える。

ユキは学校の帰り道、自分より前を歩いている弟を見つけた。⁽¹⁾ユキはうれしくなり、小走りに弟に近づいていき、「おいー」と声をかけてみた。

すると弟は、はたと立ち止まり、ユキの方に向き直ると、なぜか泣き出した。⁽²⁾ふしぎに思ったユキは、弟にわけをたずねた。

(1) 線①「ユキはうれしくなり」とあります、なぜですか。十字以

内で書きなさい。

例

弟	を	見	つ	け
た	か	ら	。	



↑「どんなこと」「どういうこと」ときかれたら、「……から。」「……ので。」など、理由を表す表現で答えます。

(2) 線②「ふしぎに思った」とあります、ユキはどんなことをふしぎに思ったのですか。書きなさい。

(例 弟が泣き出したこと。)

□「……はですか。」ときかれたら、文末を「……」と。やものの名前(名詞)などにします。「どんなとき」ときかれたら、「……とき。」と答えます。「どんな様子」ときかれたら、「……様子。」と答えます。



1 物語(1) 場面・情景をとらえる

1 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

確 認 問 題

足はかんたんにつく深さだったけど、押野が足をつかむから、ぼくはバタバタと水の中で余計に動いて、水をがつぱり飲んでしまった。

ピピーツ。

突然笛の音が響いて、みんなの動きがいっせいに止まつた。押野も気づいたらしく、水中から顔を出した。ぼくは咳きこみながら、あわてて顔の水をぬぐう。

「おい、そこー何やつてるんだー」

^①笛を吹いた先生が指差したのは、ぼくと押野だつた。

「ピールでふざけるな。おぼれたらどうするんだー」

みんながぼくたちに注目した。ぼくはまたむせてしまつた。苦しいのとはすかしいのとで、^②顔も真つ赤だつたはずだ。

「大丈夫か?」

先生があわてて飛んでくる。ぼくは先生に引っ張られ、ピールサイドで身体にタオルをかけられた。さつきまで騒がしかつたピールが、世界の終わりみたいにシーンとなつた。^③セミまで遠慮して、鳴くのをやめたみたいだつた。

(柳月美智子「しづかな日々」より)

(1) 場面

季節

場所

この場面の季節と場所を、一字と三字で書きなさい。

(2) 場面

季節

場所

——線①「笛を吹いた先生が指差したのは、ぼくと押野だつた。」とあります。先生が笛を吹く前「ぼく」と押野はどうしたのですか。文章中の言葉を使って具体的に書きなさい。

(3)

——線②「顔も真つ赤だつたはずだ」と「ぼく」が考えたのは、「ぼく」がそのときどんな気分だつたからですか。文

章中から五字以内で二つぬき出しなさい。

(4) 場面

——線③「セミまで遠慮して、鳴くのをやめたみたいだつた。」とあります。これはどんな様子を表していますか。

簡潔に書きなさい。

場面・情景のとらえ方……(1)・(2)・(4)の問い合わせ

「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」に注目する。：季節や場所がわかる言葉や、「ぼく」の行動に注目し、場面をとらえます。

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

始業式がおわって教室にもどつて、二学期の委員や係も決まって、あとは席がえです、つてときのこと。ドキリンコが、いつもみたいにあせつた声でしゃべりはじめたのだ。

「あのね。いろいろ考えたんだけど、今回の班分けは新しい試みとして、くじ引きで決めようと思います」

その瞬間⁽¹⁾、教室のあちこちから、ドキリンコめがけて「えーっ！」という声が発射された。もちろん、あたしの口からも「えーっ！」の三連発。⁽²⁾みんなの声がすっごく大きかつたから、ドキリンコはもつとあせつちやつて、「あのね、あのね」と首をかたむけた。それがいつもくせなんだよね。

ドキリンコの本名は、桐野陽子。先生一年目。ひょろつと背が高くて、へんに首が長くて、いつもドキドキしてるみたいな目であたしたちを見る。それで、いつのまにかドキリンコつてあだ名になつた。ふだんはみんな、いちおう先生つてよんてるんだけど。

「あのね、聞いて。くじ引きで班分けしたら、そんなんになかよしじゃない人とおなじ班になるかもしれないわよね。で、でもね。そういうときこそ、積極的に相手のことを知ろうとしてほしいの。そうしたら――」

教室がすこししずかになつたから、ドキリンコはほつとしたみたいで、につこりした。

「新しい発見があると思うのよ。ねつ、そうでしょ」

（香坂直）「走れ、セナ！」より 講談社刊

20

15

10

5

『えーっ！』という声が発射されたとありますか。なぜですか。

文章中の言葉を使って書きなさい。

（1）場面――線①「教室のあちこちから、ドキリンコめがけて

（2）場面――線②「みんなの声がすっごく大きかつたから、ドキリンコはもつとあせつちやつて」とあります。この後「みんな」と「ドキリンコ」の様子が変化したことがわかる一文を文章中からぬき出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

(3)

（登場人物）ドキリンコの考え方として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 教室では相手のことをよく考えて、静かにしてもらいたい。
 イ なかよしではない人とも協力して、くじ引きをしてほしい。
 ウ 自分から相手を知ろうとすれば、新しい発見があるはずだ。
 エ ほかの方法に比べて、くじ引きは最も平等なやり方である。

--

時間や登場人物の変化に注目する。：教室のみんなとドキリンコの

様子の変化に注目して、場面の展開を読み取ります。

練習問題

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

「六年生のつかさは、体育のスケートの時間に具合が悪くなつて姿を消し、^{姿を消す}た早乙女（おとめ）を探してくるように先生から言われる。」

先生や生徒たちが雪をふみしめて平らにならし、その上からくりかえし水をまいて凍らせて作つたりんぐだ。ガラスのような地面の上を、クラスメイトたちがすいすいすべっていく。泳ぐ魚、いや、鳥が飛んでいる姿に似ている。なんだか、ふしぎな気分になつた。¹
ぼくだけが、世界を外側から見て、いるような気持ち。じれつたいようなくすぐつたいような感じだ。神さまって、もしかしたら、こんなふうにぼくたちを見て、いるのかもしれないな。そう思いながら、後ろを向いたら、看板^{かんばん}が目に入つた。

——この先、立ち入り禁止——

いかにも手作りつて感じのぶかつこうな看板だ。そういえば、学校のとなりにあるこの森は、成沢さんという人の土地らしい。氣むずかしいじいさんで、学校を建てるまでがたいへんだつたと聞いたことがある。土地成り金の成沢さんなんて、ぴつたりの名前だつて、ぼくの父さんも笑つてたつけ。²
まさか、おとめのやつ……

つぶやいた自分の声に、ゾッとした。おとめは、この看板の向こうにいつてしまつたのではないだろうか。ぼくは、うつそうとしげつた森に目をこらした。³ここは、「かえらずの森」とよばれてる森なのだ。なんでも、むかしから、子どもがこの森に入りこむと二度と帰れなくなるといわれているそうだ。もちろん迷信に決まつ

(1) 1 線①「ぼくだけが、世界を外側から見て、いるような気持ち。」について、次の各問い合わせに答えなさい。
2 「ぼく」は、どんなことがきっかけでこのような気持ちになつたのですか。次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中からぬき出しなさい。

(2) 1 線②「まさか、おとめのやつ……」とあります。が、^{想像}したことが書かれた一文をぬき出し、初めと終わりの五字を書きなさい。
2 線③「かえらずの森」とあります。が、「ぼく」はどうなことを考えたのですか。文章中の言葉を使って書きなさい。

(3) 1 線③「かえらずの森」とあります。が、このようによばれてるのはなぜですか。「……があるから。」に続くように、文章中の言葉を使って書きなさい。

てる。そうでなければ、そんなふつそうな森のとなりに学校なんて建てるはずがないんだ。だけど、今のところ、だれひとりこの森に入ろうとするやつはない。やつぱりきみがわるいからな。森は、²⁵どんよりと暗く、しめつたにおいがする。何かおそろしいものがひそんでいてもおかしくない空気が、みちあふれているのだ。ぼくは、森に背を向けた。おとめが森に入つたって別にかまわないじやないか。好きで入つたんだろうし、ぼくがとやかくいうことじやない。³⁰だいたい、この雪だ。がつちり着こまないと、こごえてしまう。ひとりじやむりだ。学校に向かつて歩きだしてから、足を止めた。おとめの声が聞こえたような気がしたのだ。

もし、おとめが雪に埋もれて、息もできないいたら？ ³⁵凍傷にかかる、歩けないで助けを求めているとしたら？ ぼくはくちびるをかみしめた。一刻も早く助けにいくべきではないのか。

ヒュウ……と風がふいて、森の木々がいつせいにゆれた。粉のような雪が、はらはらと落ちてくる。

「つかさ……くん」⁴⁰

ぼくはつばをのみこんだ。おとめの声だ。風にちぎれそうな細い声……。

① 気がついたら、ぼくの足は森に向かつて動きだしていった。これは、友情なんかじゃない。ぼくの正義感、クラスメイトとしての最低の義務。それだけだ。

つぶやくぼくをあざ笑うかのように、森の木々がザワザワとゆれていた。

(ひろはたえりこ) 「空のてっぺん銀色の風」より 小峰書店刊

(4)

——線④「気がついたら、ぼくの足は森に向かつて動きだしていった。」について、次の各問いに答えなさい。

1 このとき、「ぼく」はどんなことを考えて森へ入つたのですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア おとめが好きで入つたのなら、それほど森が危険だというわけではないだろうということ。

イ 雪がひどいので、一度学校に引き返してから森に入つたのでは、おとめを助けるには間に合わないということ。

ウ 危険なので引き返そうと思ったが、おとめの声が聞こえた気がしたので、すぐに助けるべきだということ。

エ クラスメイトとしての義務を果たすためには、雪がやむのを待たずにすぐに出かけるべきだということ。

2 この後の展開を予感させる情景を表した一文をぬき出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

言葉のまど
ぶつそう (23行目) …「何が起るかわからない、あぶない感じがすること。」という意味の言葉です。「ぶつそうな世の中」などのように使います。ここでは、学校のとなりの森が危険であることを表しています。

2 物語(2) あらすじをとらえる

確 認 問 題

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

高校に入学した「おれ（篠崎達也）」は、思いがけず園芸部に入部して活動することになった。すると、これまで全く関心のなかつた草花に興味がわき、街でも気にするようになった。

逆の意味で気になるのは、しおれている花を見たときだ。なかでも、うちの近所にある写真のスピード印刷店は最悪だ。店の前に、アルバムを並べたワゴンが出ているのだが、その足元に木の樽のような鉢がひとつ置かれ、赤いインパチエンスが植えられている。赤いインパチエンスは、おれが学校に持つて、いつたのと同じ花だ。学校の倉庫の裏では、どんどん伸び、毎日元気な赤い花を次々に咲かせているのに、その店のインパチエンスは、汚くなつた花びらをたくさんつけて、しおれていた。朝七時から夜の十時までやつている店で、登校するときあいているのだが、店の中をのぞくと、いつもバイトらしいお姉さんが、カウンターにひじをついて、いつも自分の髪をいじつていて、枝毛^{えだげ}とるより、水やつてください。

そう、いったかつた。でも、いえなかつた。視線に気がついたのが、お姉さんはこつちを見てにらんだだけだ。スピード印刷店のインパチエンスは、日に日にしおれていく。絶^{ぜつ}

(1) 線① 「うちの近所にある……最悪だ」とあります。が、「おれ」は何のどのような様子を見て「最悪」だと思つてゐるのですか。次の文の（ ）にあてはまるよつに書きなさい。

店の前の鉢に植えられた

(2) 線② 「いかにも……いじつてている」とあります。が、この様子からどんなことがわかりますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

イ お姉さんは花より自分の髪のことの方が大切なので、店の花に水などやらないうだらうということ。
ア お姉さんはあまり仕事熱心ではなく、店の花の世話をしないしかないだらうということ。

ウ お姉さんはアルバイトという立場なので、店の花の世話をしたくてもできないだらうということ。

エ お姉さんは写真のこと以外には興味がなく、店の花の水やりを忘れているのだろうということ。

（3） あらすじ――線③ 「一週間後、決心していつもより早くうちを出た。」について、次の各問い合わせに答えなさい。

1 「おれ」は何時に、どこに行つたのですか。次の文の□にあてはまる言葉を、文章中からぬき出しなさい。

対に水をやり忘れている。

一週間後、決心していつもより早くうちを出た。水を入れたペツトボトルと前日に学校から持ち帰った園芸バサミとゴミ袋を持つ。

朝七時前だから、スピード印刷店はまだあいていない。シャツターが下ろされ、インパチエンスの鉢は、外に出しつぱなしだ。

駅に向かう人が、横を時々通りすぎていくなか、おれはインパチエンスの鉢の前にしゃがみこむ。ドキドキしながら急いでペツトボトルの水を根元にかけた。それから園芸バサミで花がらを手早く摘み、ゴミ袋に入れる。最後にあらかじめ用意したメモを花の中にさしこんだ。

「毎日、水をかけてください。のどがカラカラです。インパチエン

スより」

かなり恥ずかしい文面だった。でもおれが毎日水をやることはできない。

その日の帰り、店の前を通ったとき、メモがなくなっていることを確かめた。朝、水をたっぷりやつたから、元気になつて。次の日も元気そうだつた。その次の日もだ。よかつた、水をもらつているらしい。おれはほつとした。

そして次の週、枝毛をとつていたおねえさんが、ジョウロで水をやつている場面に遭遇した。^{（おれ）}嬉しくて思わず笑顔で頭を下げる。変な高校生だと思われたらしく、またにらまれた。

（魚住直子「園芸少年」より）

（花がら）咲き終わった後も散らずに残っている花。
あらかじめ前もって。 遭遇思いがけなく出会うこと。

20 25

に、開店前の□
に行つた。

2 1の場所で、「おれ」は何をしたのですか。文章中の言葉を使つて、三つ書きなさい。

（おれ）

1 の場所で、「おれ」は何をしたのですか。文章中の言葉を使つて、三つ書きなさい。

練習問題題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

オッサンの監督は変な椅子にすわっていた。あの、釣りをするひとが持ち歩くような、ちっちゃなやつ。

それに尻を半分以上はみださせて腰かけ、そして、ぼくたちをそんなに熱心に見てはいないみたいだった。

ところが、その最初の日、練習が終わると、ぼくはオッサンに呼ばれたのだ。

「楠本、よく聞け」

「あの、ぼく、楠林ですけど」

「そうか。ま、どっちでもいい。いいか、おまえは、俺の秘密兵器だ」

秘密兵器？

言われた瞬間、ぼくはうれしいというよりもどつた。なんか、すごく古臭いことばの気がしたのだ。いまどき、そんな、マンガでも言わないような。

「いいか、走れ。おまえはピッチを好きなだけ走り回れ。それでいい。わかつたな、楠本」

「えー、はい。わかりました、一応」

それで控えのFWとして走っているうちに、ぼくは初めてスタメンで試合に出られることになった。

ハイツルの三分後、ぼくは長い距離を走りスルーパスを受け、フリーの位置からゴール隅に流しこんでいた。その後もオフサイド・トラップの後ろのスペースにやすやすとはいこんで、相手の

(1) 線①「いいか、おまえは、俺の秘密兵器だ」について、次の各問に答えなさい。

- 1 このように言われたとき、「ぼく」はどんな気持ちになりましたか。文章中から五字でぬき出しなさい。

2 監督は「ぼく」に、どんなことを指示しましたか。文章中の言葉を使って書きなさい。

(2) 線②「えー、はい。わかりました、一応」とあります。このときの「ぼく」の気持ちとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 監督の言うことはあまりききたくないな。
イ 監督はぼくの実力をわかつていらないようだ。
ウ とりあえず監督に言われたとおりにしよう。
エ 監督がぼくの願いをかなえてくれたぞ。

(3) 線③「試合に出られることになった」について、次の各問い合わせに答えなさい。

- 1 この試合は「ぼく」にとってどのような結果になりましたか。
適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
A 試合に勝ったのに、監督にしかられた。
イ 大かつやくをして、監督から喜ばれた。
ウ 試合に負けたが、監督になぐさめられた。
エ 実力をはつきして、監督におどろかれた。



チームが持つ守備体型への自信を人々に打ち碎いた。

終わってみれば、2得点、2アシスト。

監督は、試合終了とともに巨体を揺すってコートの中にはいつて

きた。ぼくを抱きかかえる。

「すごいスピードだ。すごいぞ、楠本。おまえは俺が出会った最強の駿足フォワードだぞ」

腕をつかんで、なかなか放そうとしなかった。

「あれは瞬間移動だつたな。やっぱり秘密兵器だ。サイボーグ009の加速装置がついてるのか？」

何を言つてゐるのか、よく理解できなかつたけれど、監督がエキサ

イトしてゐることはわかつた。そして、その興奮がじわじわとぼくにも伝わってきた。そのとき、ぼくは、それこそプロになれるんじゃないかなって、本気で思つたくらいだつた。

でも、その後、そんなにはなばないしプレーは続かなかつた。ひとつには、リーグの他のチームがぼくのことを覚えて警戒したといふのがある。

それに加えてといふか、何よりも、認めたくないことではあるのだけど、ぼくは接近戦に弱いみたいなのだ。相手と一対一になるのが苦手。

今日にいたつては、あんなプレーだつた。最近の小学生のサッカーは競争が激しいのだ。ぼくは、ポジションを五年の平田に奪われかねない。

（川島誠「ゲキトツ」より　BL出版刊）
秘密兵器（9行目）…「秘密十兵器」つまり「秘密の兵器」と
ピッチングラウンド。FW＝フォワードというサッカーのポジション。
オフサイド・トラップ＝サッカーの戦術の一つ。
アシスト＝得点するのを助けるプレー。
駿足＝足が速いこと。

（5）「ぼく」は今、チームでどんな状態になつていますか。それがわかる一文を文章中からぬき出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

と思った。

（4）――線④「その後、そんなにはなばないしプレーは続かなかつた」とあります。どんなんことが原因ですか。文章中の言葉を使つて二つ書きなさい。

2 この試合の後、「ぼく」はどんなことを思いましたか。「……と思つた。」に続くように、文章中から十二字でぬき出しなさい。

詩(1)

詩の種類や表現技法をどうえる

確 認 問 題

- 1 次の詩を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

海の果
金子みすゞ

雲の湧くのはあすこいら、
虹の根もともあすこいら。

いつかお舟でゆきたいな、
海の果までゆきたいな。

あまり遠くて、日が暮れて、
なにも見えなくなつたって、

あかいなつめをもぐように、
きれいな星が手で採れる、
海の果までゆきたいな。

あすこいらあそこあたり。
なつめり木の実の一種。

(1) この詩の種類を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 文語定型詩 イ 文語自由詩

ウ 口語定型詩 エ 口語自由詩

(2) この詩は何連からでていますか。漢数字で答えなさい。

□ 連

(3) 線①、③「海の果までゆきたいな」、線②「あかいなつめをもぐように」で使われている表現技法として適切なものをそれぞれ次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 直喻 イ 隠喻
ウ 擬人法 エ 反復

① □ ② □

(4) 作者は「海の果」とはどんなことができる場所だと想像していますか。次の文の()にあてはまる言葉を書きなさい。

星を()ことができる場所。

(5) この詩では、作者のどのような気持ちがうたわれていますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自然に対する感動 イ 遠い世界へのあこがれ
エ 現実の社会への不満 エ 過去に対するなつかしさ

□

表現技法のどうえ方 (3)の問い合わせ

比喩や、くり返しに注目する。:比喩を使った表現や、同じ言葉のくり返し(反復)に注目して、詩の内容を読み取りましょう。

2

次の詩を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

忘れもの

高田敏子

入道雲にのつて
夏休みはいつてしまつた
「サヨナラ」のかわりに
素晴らしい夕立をふりまいて
けさ 空はまつさお
木々の葉の一枚一枚が
^①あたらしい光とあいさつをかわしている
だがキミ！ 夏休みよ
もう一度 もどつてこないかな
^②忘れものをとりにさ
迷子のセミ

表現技法のどうえ方……(1)の問い合わせ

表現技法の効果を考える。……言葉の順序をふつうとは逆にする倒置を使うことによって、前にきた言葉が印象づけられています。

(1)

第一連では倒置によつて何が強調されていますか。次
の□にあてはまる言葉を、詩の中から三字でぬき出しなさい。



が終わつてしまつたこと。

(2)

倒置以外にこの詩で使われている表現技法を次から
すべて選び、記号で答えなさい。

ア 直喻 イ 摳人法 ウ 対句
エ 反復 オ 体言止め

(3)

線① 「あたらしい光とあいさつをかわしている」
とあります。何の、どのような様子をたとえていますか。適切
なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア まつさおな空が、朝の光ですみきつて見える様子。
イ まつさおな空が、雨上がりでまぶしく見える様子。

ウ 木々の葉が、秋の日差しを受けてかがやく様子。
エ 木々の葉が、真夏の太陽に照りつけられる様子。

線② 「忘れもの」の内容が具体的に書かれ
ているのは、第何連ですか。漢数字で答えなさい。

第□連

(5) この詩では、作者のどのような気持ちがうたわれてい
ますか。次の文の()にあてはまる言葉を考えて書きなさい。

過ぎ去つていく夏を()
 気持ち。